

神のいつくしみを知る(ルカ福音書をととして)

I. いつくしみ”と“あわれみ”という言葉について

1. 日本語の問題 (意味とニュアンス) …情けをかける？上から目線？
2. ヘブライ語 (教皇ヨハネ・パウロ 2 世回勅「いつくしみ深い神～Dives in Misericordia～」ペトロ文庫 P112 注(52)参照)
 - A. 「ヘセド: **חֶסֶד**」…「内心の深いよさの心情」→契約における「忠実」を表す。
 - B. 「ラハミム **רַחֲמִים**」(R-H-M) 女性の胎を表す。【Break】教皇講話：2015 年 2 月 11 日「家庭」の連続講話で「息子、娘について」
3. ギリシャ語
 - A. ラハミム→「スプラングニゾマイ **σπλαγχνίζωμαι**」=**σπλάγχνα**(スプラנקナ:内蔵、はらわた) + **ίζωμαι**(動詞化するための語尾「～する」)
 - B. ヘセド→「エレーオー**ἐλεέω**」神がご自身の真理に基づいて、その忠実さを示す。契約に忠実であるというヘセドのいつくしみの概念を引き継ぐ語。盲人たちの「主よ、ダビデの子よ、私たちを憐れんでください(マタ 20:30, 31)」の例。
4. ラテン語

MISERI-CORDIA=Miser (惨めな、あわれむ) + Cor Cordis (心・心臓) ※古代語からすると、人間の存在の中心の場所、魂や心がある場所は、おなかから胸の方へあがってきたと言える。

II. ルカ福音書における神のいつくしみ(あわれみ)

1. 導入

ルカのイエスは貧しい人々に特別の好意を示し(ルカ 4:18, 7:22)、罪びとの仲間となり(7:34)、はばかりことなく彼らと交際する(5:27, 15:1-2, 19:7)。群衆一般に対するイエスの憐れみは他の福音書にも記されているが(マタ 9:36, 14:14, 15:32, マコ 6:34, 8:2)、ルカは個人に対する細かい慈愛を伝えている。例えばナインのやもめの一人息子の蘇りについてはルカだけが述べており(ルカ 7:11-17)、また、ヤイロの娘の蘇りと悪霊に取りつかれた娘のいやしでは、ルカだけがその子は一人子であったことを特記している(ルカ 8:42, 9:38→マタ 9:18, 17:15, マコ 5:23, 9:17)。ルカのイエスはまた、女性や異邦人に対して特別の好意を表す。こうして「人は皆神の救いを見る(ルカ 3:6)」という、神の万人に対する普遍的な憐れみが完全に実現していく。イエスがこのようにすべての人に同情 (compassion) を示したのだから、苦しむ人々が神自身に向かうようにイエスに向かい「主よ、憐れんでください(マタ 15:22, 17:15, 20:30-31)と繰り返したのは当然のことである。

2. 三回のスプラングニゾマイ σπλαγχνίζωμαι (別紙参照)

見る、見つめる + 憐れに思う + (近寄ってなどの) アクション【具体的行動】

3. 「放蕩息子のたとえ」 (神のいつくしみを総括する)

- 「神(放蕩息子の父)の憐れみを模範とし、それを実践するようにとの招き」の視点
- マタイ 5:48「あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」→ルカ 6:36「あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。」